

株主のみなさまへ

第14期中間報告書

2011年4月1日～2011年9月30日

株式会社トランスジェニック 証券コード2342



ひとり一人の健康と豊かな暮らしの実現をめざして

Highlights

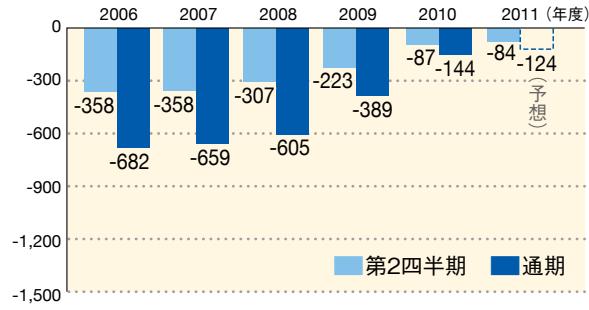
連結決算ハイライト

Highlights

▼売上高(単位:百万円)



▼経常損益(単位:百万円)



▼当期純損益(単位:百万円)



■概況

当社は、当第2四半期連結累計期間において、国内外研究機関との共同研究の強化及び新実験棟の起工など将来に向けた研究基盤の強化に取り組むと共に、マウス事業の一環として非臨床試験受託サービスを開始するなど営業活動の強化を図りました。その結果、当第2四半期累計期間における当社グループの売上高は255百万円(前年同期201百万円)となりました。損益については、営業損失87百万円(前年同期81百万円)、経常損失84百万円(前年同期87百万円)、四半期純損失87百万円(前年同期は四半期純利益8百万円)となりました。

セグメント別業績状況は、遺伝子破壊マウス事業においては、マウス作製受託が堅調に推移し、売上高145百万円(前年同期113百万円)で増加となりました。しかしながら、マウス事業の一環として開始した非臨床試験受託サービスの立ち上げに係るコストが負担となったことから、営業損失2百万円(前年同期は営業利益25百万円)と減益となっています。抗体事業においては、受託サービスが概ね順調であったことから、売上高55百万円(前年同期32百万円)で増加となりました。また、抗体開発費が減少したことから、営業利益6百万円(前年同期営業損失3百万円)と大幅改善しました。試薬販売事業の売上高は53百万円(前年同期54百万円)となり、営業利益11百万円(前年同期8百万円)と損益は改善いたしました。

Top Message

ご挨拶

Top Message

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。さて、第14期中間報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当社は生命資源の開発を通じて社会に貢献する企業を目指しております。この目標を達成するために、当事業年度においては遺伝子破壊マウス事業において設備増強及び新サービス開始による受注・開発体制の拡充、抗体事業におきましては当社が保有する知的財産の事業化を国内・海外へ向けて推進いたします。また、当社にとって有益な各研究機関・企業との様々な提携強化を引き続き推進いたします。

当社はこれらの重点施策に全社員一丸となって取り組み、社会的貢献度の高い企業へ成長し続けることで、企業価値のさらなる向上を実現させる所存です。

株主のみなさまにおかれましては、当社の取り組みに何卒ご理解をいただき、なお、一層のご支援を賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

2011年12月 代表取締役社長
福永 健司



Profile 略歴

- 1969年 8月 13日生まれ
- 1993年10月 有限責任監査法人トーマツ入所
- 2003年 5月 トーマツ・ベンチャーサポート株式会社取締役
- 2009年 6月 株式会社トランスジェニック取締役
- 2010年 6月 株式会社トランスジェニック代表取締役社長 現任

Contents 目次

連結決算ハイライト	1	事業のご紹介	5	会社概要	11
ご挨拶	2	研究開発のご紹介	7	株式の状況	11
トップインタビュー	3	知的財産戦略	8	株主メモ	11
		連結財務諸表	10	IRからのお知らせ	11

Q1

平成24年3月期業績見通しについてお聞かせください。

平成24年3月期は、過去2期間すすめてきた収益基盤の拡大及び収益構造の改革の総仕上げの年と位置付け、黒字化達成を経営目標として掲げました。しかしながら、東日本大震災の影響による公的研究費支給の不透明感を起因として当上期は収益率の高い製品・サービスの受注が想定を大幅に下回る状況で推移いたしました。

当該状況を挽回すべく、マウス事業の一環として開始した非臨床試験受託サービスや既存事業の営業を強化により収益を獲得する方針ではありますが、国内外の経済環境に不透明感が漂う中、下期損益見通しについては保守的に見直さざるを得ないと判断いたしました。

この結果、平成24年3月期業績予想については、引き続き増収・損益改善傾向は維持するものの、売上高については600百万円(前年同期509百万円)、また、損益については、営業損失127百万円(前年同期△133百万円)、当期純損失134百万円(前年同期△215百万円)にとどまる見込みとなりました。

Q2

株式会社免疫生物研究所に続き中国JOINNとの業務提携を締結しましたが、活発な業務提携の進捗状況と中長期的な戦略をお聞かせください。

当社は、自社にはない強力な経営資源をもつ他社との積極的な事業補完及び業務提携を通じ、事業基盤拡大を図ることを基本戦略の一つとして位置付けております。今春に包括的業務提携を行いました株式会社免疫生物研究所とは、現在、開発面においては腫瘍マーカーの共同開発を、また、営業面においては相互の顧客網を補完し合う共同営業を行っており、その効果が下期以降に出てくるものと予想しています。

今回当社が提携した中国JOINN社は、リリースでも説明しましたとおり中国最大規模のCRO企業です。当社はマウス事業の一環として当期より非臨床試験の受託を開始しています。本業務提携は、当社が有する非臨床試験受託業務の技術ノウハウおよび日本製薬業界のネットワークをJOINNに提供し、中国最大級規模のGLP適合施設を所有する同社とともに中国展開することで、大規模かつ高品質な試験を拡充することを目的としています。今後、両社で事業シナジーを追求し、相互の非臨床試験受託業務サービスの売上拡大を図る所存です。

当社は今後も各事業セグメントに有用と考えられる事業提携やM&A等を積極的に検討していく方針です。

Q3

神戸研究所内に新実験施設を建設中ですが、概要をお聞かせください。

現在、当社のマウス事業は、ポートアイランドにある神戸研究所と滋賀県にある油日研究所とに分かれて遺伝子破壊マウスの作製・増産等を行っています。

当社では、年々増えている受託案件数の処理能力が限界に近付いていることや、作業場所の分散による非効率性が従前から経営課題となっていました。

現在建設中の新実験施設は床面積が1200㎡であり、現神戸研究所の研究スペースの約1.5倍のスペースとなります。また、現神戸研究所に隣接して建設するため、完成後には油日に分散していた作業の集約による効率化や将来のヒト化マウス事業開始を見据えた抜本的な能力拡充を可能にするほか、国内における高付加価値な非臨床試験受託サービスの拠点としても機能させる予定です。

新実験施設の完成により、当社神戸研究所は神戸産業医療都市ポートアイランドを代表する研究所の一つとなります。是非、ご期待下さい。

Q4

最後に、株主様へのメッセージをお願いいたします。

厳しい経営環境の中、当社の経営課題でありました黒字化についても当初予想より厳しい状況にはありますが、事業規模・内容は着実に每期拡大・改善しております。また、黒字化に向けた既存事業の技術拡充及び規模拡大への取り組みや、国内のみならず海外への積極的営業展開も順調に進捗しており、新たに開始した非臨床試験受託サービスも今後の収益の柱になることが期待されます。

一方で、研究開発においては、将来的に高収益率が期待できるモデルマウスの自社開発および診断薬シーズ開発といったトランスジェニック社独自の研究開発推進を引き続き行っております。当社は、これらの取り組みへ効率的に経営資源を投入してまいります。

以上のように、経営課題の達成に向けた積極的な取り組みとともに、研究開発型ベンチャーの挑戦を続けます。

株主の皆様方におかれましては、ご心配をおかけすることも誠に申し訳なく思いますが、何卒ご理解を賜りたくお願い申し上げます。

◀新実験施設 完成予想図

事業のご紹介

■各セグメントの取り組みをご紹介いたします。

マウス事業

当社の独自技術である遺伝子トラップマウス作製技術により作製した遺伝子破壊マウス750系統および遺伝子破壊ES細胞2,000系統の情報を保有し、当社ホームページ上の『TG Resource Bank[®]』および国立遺伝学研究所のデータベースとして公開し、系統ごとに使用権を供与しています。また、研究者が標的とする遺伝子を破壊したマウスの作製受託や疾患モデルマウスの提供も収益の基盤となっています。

また、創薬支援の一環として、国内では入手がたいアルツハイマーやパーキンソン病の動物モデルでの薬剤評価システムを提供しています。新たに非臨床試験受託を開始いたしました。

【主な製品・サービス】

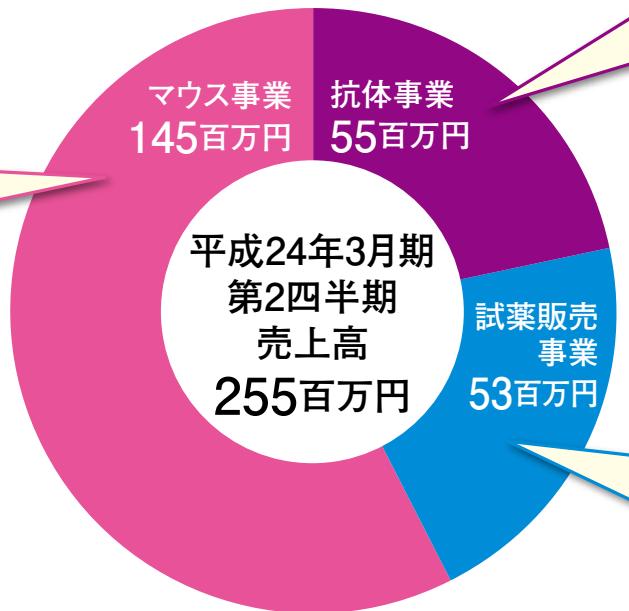
- TG Resource Bank[®] (750系統のマウス、約2,000系統のES細胞)
- 遺伝子破壊マウス作製
- 非臨床試験受託
- 高密度ヒト組織マイクロアレイ



▲遺伝子破壊マウス

好調に推移

▼売上高構成



平成24年3月期
第2四半期
売上高
255百万円

抗体事業

当社のGANP[®]マウス技術を用いてがんや糖尿病といった市場性が期待される抗体を作製し提供しています。また、研究者からの抗体作製受託も行っております。さらに、抗体作製技術を発展させ、各研究機関から得られたバイオマーカー候補分子情報に基づき開発した抗体について、診断薬を目指して研究開発に取り組んでいます。尿中腫瘍マーカー、膵がんマーカーに引き続き、メタボリックシンドローム関連バイオマーカー等各種バイオマーカーの拡充に努めています。

【主な製品・サービス】

- GANP高親和性抗体作製
- 自社開発抗体製品販売
- モノクローナル抗体作製
- タンパク質高発現細胞作製



▲開発抗体製品

好調に推移

試薬販売事業

ライフサイエンス研究支援のための、研究用試薬販売(輸入抗体製品、サイトカイン)および情報提供を展開しています。現在、当社の取扱品目数は、25,000種類です。今後も、サイトカインを含めた研究用試薬の拡充につとめ、ライフサイエンスの支援をしてまいります。

【主な製品・サービス】

- 研究用抗体製品の輸入販売
- 再生医療研究用サイトカイン
- がん免疫細胞療法研究用サイトカイン



▲研究用試薬

好調に推移

Technology テクノロジー

可変型遺伝子トラップ法

熊本大学生命資源研究・支援センター 教授 山村研一(当社取締役)らにより発明された、遺伝子改変マウスの効率的な作製方法であり、トラップベクターによりマウスES細胞に発現する遺伝子をランダムに完全破壊する方法です。従来のトラップ法に比べて、遺伝子の完全破壊が行えること、破壊した遺伝子の位置にヒト遺伝子や突然変異などを挿入可能であることが特徴であり、ヒト疾患モデル動物の開発や詳細な遺伝子機能解析に有用な手法です。当社は、本技術を基軸とした遺伝子破壊マウス作製技術を基幹事業としています。

ヒト化マウス

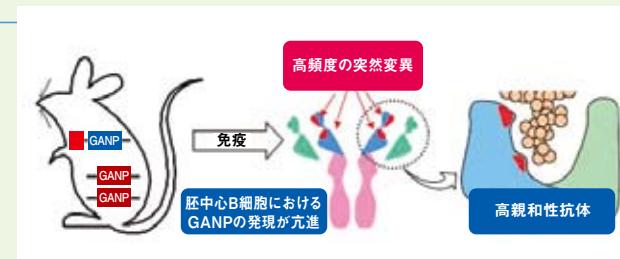
ヒト化マウスには、便宜的に遺伝子レベルでのヒト化マウス、細胞レベルでのヒト化マウス、組織・臓器レベルでのヒト化マウスの3種類があります。遺伝子レベルでのヒト化マウスは、トランスジェニック社が持つ可変型遺伝子トラップ法または可変型相同組換え法によりすでに作製可能です。細胞レベルでのヒト化マウスの例としては、ヒト白血球を持つマウス、ヒト抗体を産生するマウスがあげられます。本共同研究で

目指すのは、組織・臓器レベルでのヒト化マウスでマウスの生体内で正常にヒト組織や臓器を再構築し、持続的に機能をさせ、ヒトの細胞や組織が拒絶されることなく体内に存在するマウスです。例えば、ヒト肝臓を持つマウスなどがあります。このようなヒト化マウスを用いることにより、非臨床試験(新薬の安全性テスト)や創薬研究がよりヒトの状態を反映したモデルで進めることが可能となります。

GANP[®]マウス技術

GANP (Germinal Center Associated Nuclear Protein)とは、熊本大学 阪口薫雄教授らにより発見された遺伝子で、抗体を産生するB細胞で発現しています。GANP[®]マウス技術とは、このGANP遺伝子を過剰に発現させたGANP[®]マウスを用いて抗体を作製する技術です。GANP[®]マウスで得られる抗体は、親和性や特異

性の高いことが特徴で、診断薬や抗体医薬の開発への展開が可能です。当社は、本技術による抗体の自社製品開発、および本技術のライセンス供与を行い、抗体事業収益の柱としております。



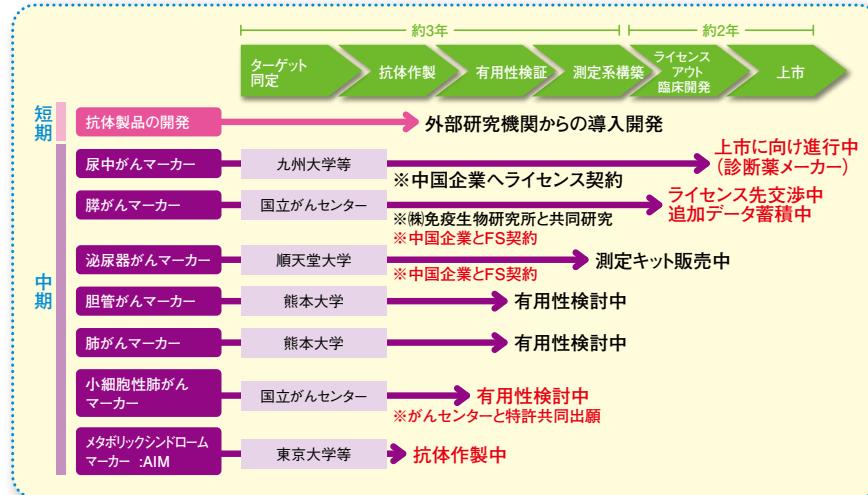
■ 研究開発基本方針

収益基盤の早期確立を目指すため、選択と集中を基本に、研究開発テーマの絞り込みを行って参りました。今後も選択と集中を進め、マウス事業におけるヒト化マウス開発、さらに抗体事業における国内外の研究機関との共同研究など、将来的な収益化につながるプロジェクトに、経営資源を投入します。

■ 研究開発パイプラインの進捗状況

当社は、GANP[®]マウス技術を用いて作製した抗体を様々なバイオマーカーとして診断薬へ展開するよう研究開発を進めております。バイオマーカー開発パイプラインの充実を図ることで、抗体事業のブランド力を高めて参ります。

新規バイオマーカーとして、メタボリックシンドロームの指標となるAIM抗体の共同研究、小細胞性肺がんマーカーの開発に取り組んでいます。



■ 研究開発トピックス

2011年 2月	タンパク質高発現系技術に関する特許出願について「トランプマウス技術」に関する特許が日本にて成立 GANP [®] マウス技術ライセンス契約締結に関するお知らせ	6月	メタボリックシンドロームに関する共同研究契約締結に関するお知らせ
3月	GANP [®] マウス技術ライセンス契約締結に関するお知らせ	7月	新実験施設の起工式実施について
4月	「GANP [®] マウス技術」に関する特許が米国にて成立 新規膵臓がんマーカーの診断応用に向けた共同研究に関するお知らせ	9月	新規肺がんマーカーに対する抗体ならびにその診断応用に関する特許出願について「GANP [®] マウス技術」に関する特許が中国にて成立

■ 知的財産戦略の方針

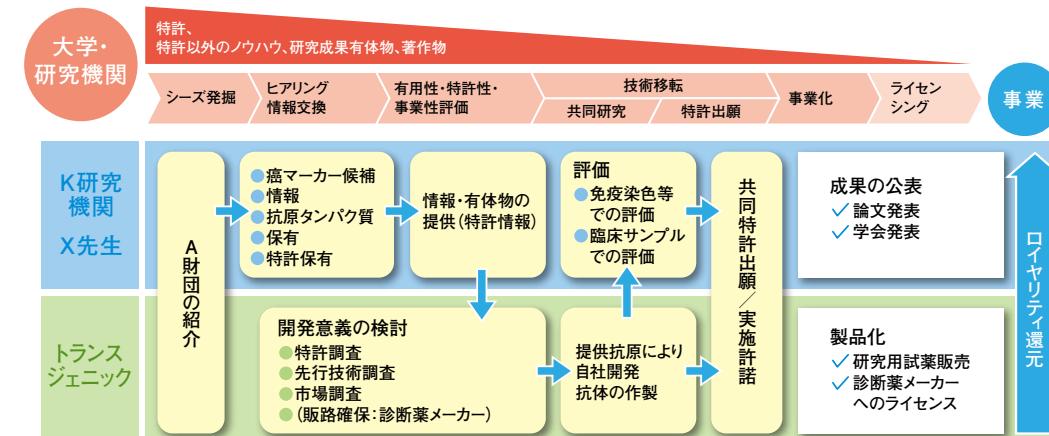
当社は、創薬ターゲットを探索している製薬企業や疾病の解明に取り組む研究者へ、有益な研究ツール、技術情報、知的財産を提供することにより、創薬、病態も解明に貢献したいと考えております。

また、当社は、大学・研究機関等との共同研究を積極的に行い、当社事業とシナジー効果が発揮でき得る技術を、研究開発の早期段階において導入することに努めております。研究開発の早期段階での技術導入により、その技術が公開される前に確実な知的財産権を確保するとともに、豊富な実験データに裏付けられた強い特許、将来のマーケティングを見据

えた特許網を構築すべく、研究開発、事業戦略と融合させた特許戦略を展開しております。さらに、導入した技術を付加価値の高い技術や知的財産に育て、これらの技術から生まれた独自性の強い製品・サービスを提供するとともに、知的財産、技術情報のライセンスビジネスを展開しております。知的財産のライセンスについては、製薬企業、診断薬メーカーなどの開発・事業のステージにあわせたマイルストーンを設定することにより、複数の事業ドメインを対象としたハブアンドスポークモデル型のライセンス契約とするなど、戦略的な知的財産の活用に取り組んでおります。

■ 特許・ライセンスの事業への貢献

当社特許の事業への貢献度は高く、当社は保有特許の極めて高い実施率を保っております。また、積極的なライセンスイン、ライセンスアウトを通じて、直接的な収入の増加のみならず、事業の優位性を図り、将来を見据えた中長期的な知的財産戦略を実行しております。



■事業戦略、研究開発戦略、知的財産戦略の横断的な取り組み

当社は、研究開発部、経営企画部を設けております。

研究開発部は、マウス作製受託、抗体作製受託とともに、新規技術導入、新規腫瘍マーカーの開発を目的とした研究開発を進めております。

経営企画部は、営業グループを中心に営業活動を行うとともに、知的財産およびライセンスを管理するグループからなり、知的財産戦略の策定・実行から自社で創出された技術の権利化や活用、さらに他社の技術動向の調査や侵害の有無、技術提携や知的財産の戦略的な導入等、知的財産に関する業務全般も扱っております。また、社内での知的財産教育

にも努めており、社内各部署への自社・他社の知的財産関連情報の発信、戦略的な知的財産の取得を目指した研究開発の指針などの提起を行っています。

当社のようなベンチャー企業にとっては、国内外の大学などの学術機関や製薬企業などの連携が極めて重要となります。当社は、知的戦略部門を中心に、大学の知財部等から積極的に技術導入やライセンスを受けると同時に、製薬企業や委託企業などとの業務提携や技術提供を行い、当社事業の拡大・強化に努めています。

■リスク対応情報

2011年9月末時点において、当社に対する特許訴訟やクレームはありません。当社は、自社知的財産の管理・運営のみならず、他社知的財産の調査・監視を徹底しております。新たな研究開発を開始する前には、特許事務所等へ特許調査を依頼し、自社技術が他社の特許侵害に当たらぬよう、リスクマネジメントに努めております。

■主な特許成立マップ

トランスジェニック社の特許群は、トラップ技術関連、GANP[®]マウス技術関連、腫瘍マーカーなど、事業の根幹となっております。これらの知的財産をもとに、国内外の複数の企業とライセンス契約を積極的に進めてまいります。

● トラップ法関連特許	米国、欧州、豪州、中国、香港、日本
● 尿中がんマーカー(ジアセチルスヘルミン)特許	日本、米国
● 膜がんマーカー特許	日本
● GANP [®] タンパク質特許	日本、米国、カナダ
● GANP [®] マウス関連特許	日本、欧州、中国、韓国、豪州、米国



四半期連結財務諸表

四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期 連結会計期間 (平成23年9月30日)
(資産の部)		
流動資産	2,221,852	1,905,116
固定資産	387,117	577,223
資産合計	2,608,969	2,482,339
(負債の部)		
流動負債	137,598	98,421
固定負債	20,673	20,560
負債合計	158,271	118,981
(純資産の部)		
株主資本	2,437,018	2,349,487
資本金	5,404,211	5,404,263
資本剰余金	546,691	546,743
利益剰余金	△3,512,101	△3,599,736
自己株式	△1,782	△1,782
その他の包括利益累計額	1,440	1,313
新株予約権	8,348	8,312
少数株主持分	3,890	4,244
純資産合計	2,450,697	2,363,357
負債純資産合計	2,608,969	2,482,339

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期 連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	前第2四半期 連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△123,817	△116,626
投資活動によるキャッシュ・フロー	705,086	△684,725
財務活動によるキャッシュ・フロー	16,860	68
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	598,128	△801,283
現金及び現金同等物の期首残高	446,357	1,993,125
連結外に伴う現金及び現金同等物の減少額	△42,560	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,001,925	1,191,842

四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 (四半期連結損益計算書)

(単位:千円)

	前第2四半期 連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
売上高	201,365	255,052
売上原価	92,264	161,681
売上総利益	109,101	93,370
販売費及び一般管理費	190,870	180,769
営業損失(△)	△81,769	△87,398
営業外収益	3,578	2,794
営業外費用	9,313	123
経常損失(△)	△87,504	△84,727
特別利益	106,250	—
特別損失	3,448	—
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	15,297	△84,727
法人税、住民税及び事業税	1,846	2,626
法人税等調整額	4,763	△73
少数株主損益調整前四半期純利益又は 少数株主損益調整前四半期純損失(△)	8,687	△87,281
少数株主利益	301	354
四半期純利益又は四半期純損失(△)	8,385	△87,635

(四半期連結包括利益計算書)

(単位:千円)

	前第2四半期 連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は 少数株主損益調整前四半期純損失(△)	8,687	△87,281
その他の包括利益	632	△127
四半期包括利益	9,319	△87,408
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	9,017	△87,762
少数株主に係る四半期包括利益	301	354

会社概要

2011年9月30日現在

会社名	株式会社トランスジェニック
設立	1998年4月
資本金	5,404百万円
従業員数	30名
事業所	
本社	熊本市南熊本三丁目14番3号
神戸研究所	神戸市中央区港島南町七丁目1番地14
東京オフィス	東京都千代田区霞が関三丁目7番1号

役員

2011年9月30日現在

代表取締役社長	福永 健司	常勤監査役	増岡 通夫
取締役	山村 研一	監査役	遠藤 了
取締役	坂本 珠美	監査役	佐藤 貴夫
取締役	船橋 泰		
取締役	清藤 勉		

株主メモ

株式の状況

2011年9月30日現在

発行可能株式総数	436,301株
発行済株式の総数	129,578株
株主数	13,029名

大株主の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
野村證券株式会社野村ジョイ	2,853	2.2
日本生命保険相互会社	1,350	1.04
野村證券株式会社	1,120	0.86
上永智臣	985	0.76
大和証券株式会社	857	0.66
佐賀芳行	800	0.61
マネックス証券株式会社	800	0.61
中村英幸	722	0.55
坂本佐兵衛	700	0.54
株式会社サンライズ・アカウンティング・インターナショナル	600	0.46

所有者別株式分布状況

金融商品取引業者	7,794株 (6.01%)	自己名義株式	14株 (0.01%)
外国法人等	875株 (0.68%)	その他の法人	1,927株 (1.49%)
金融機関	1,640株 (1.27%)	個人・その他	117,328株 (90.55%)

証券コード	2342
上場市場	東京証券取引所 マザーズ
上場年月日	2002年12月10日
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会・期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日

株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL:0120-232-711 (通話料無料)
公告方法	電子公告(当社ホームページに掲載) ※事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

IRからのお知らせ

最新トピックスやホームページの更新情報などを電子メールでお知らせしています。
ご登録は当社ホームページにて受け付けています。

<http://www.transgenic.co.jp/>



当社のIR活動についてご意見・ご感想をお聴かせください。
下記アドレスへのご連絡をお待ちしております。

ir@transgenic.co.jp